

令和7年度 産業建設委員会 行政視察実施報告書

1 視察日程

令和7年6月30日（月）～7月3日（木）

2 視察先及び調査事項（詳細は別紙のとおり）

秋田県大仙市

- ・新規就農者の支援及び農業の後継者対策について

山形県天童市

- ・ふるさと納税の取組について

山形県酒田市

- ・酒田市産業振興まちづくりセンター「サンロク」について

3 参加者

委員長	井	上	浩	二
副委員長	高	橋	淑	子
委員	渡	部	勤	文
	黒	川	理	恵子
	日	野	克	則
	三	好	和	彦
	藤	井	武	彦
	西	坂		壽
	一	色	輝	雄

(別紙)

視察先	秋田県大仙市（人口 74,491人、面積 866.79km ² ）
視察日時	令和7年6月30日（月） 15時00分～16時30分
視察目的 （視察先選定理由）	新規就農者の支援及び農業後継者対策について、大仙市の農業情報センターの取組を参考にして、西条市独自の新規就農者対策や農業の後継者対策に取り組む。
調査概要	○新規就農者の支援及び農業の後継者対策について 1 大仙市の農業の現状について 米・大豆・園芸が主な農産物であるが、米の割合が大きく令和5年産米で作付面積全国3位、収穫量全国2位を誇る。冬場には積雪が多いため、近年ではハウスでの園芸栽培や枝豆、アスパラガス、トマト、しいたけ、花きに力を入れており、平成27年度からはトマトの大規模団地を整備し、産地化を推進している。 2 大仙市農業振興情報センターの取組について （1）概要について 平成10年4月1日に開設。業務内容は、新規農作物等の導入のための栽培試験及び農業者への栽培技術等の普及や指導に関すること、気象情報その他営農情報の受発信、新規作物等の栽培展示、農業者の営農技術研修及び技術相談、新規就農者及び農業後継者の育成、農地の利用調整等営農支援に関すること。現在は、時代の変遷に合わせ、新規就農者及び農業後継者の育成が主な業務となっている。 （2）県及び地元農協等の関係機関との連携について 新規就農者の研修期間中は、国から「農業次世代人材投資事業」として年間150万円、県から「地域で学べ！農業技術研修奨励金」として年間90万円が交付されるが、どちらかを選択しなければならない。 また、大仙市外から研修生の受け入れもしており、自治体から年間48万円の負担金をいただいている。 研修によって生産された作物は「JA秋田おぼこ」を通じて市場出荷され、売り上げ（令和6年度実績は503万円）は市の歳入となっている。 （3）指導員及び研修生の募集・受入方法と実績について 農業専門技術員（指導員）については、現在、元県職員の普及指導員を会計年度職員として3名雇用し、週3日（7時間45分×3日）勤務してもらい、営農指導や研修生の指導に当たっている。採用時点で65歳ぐらいの人が多く、長期採用が難しいところが問題である。また、研修生の募集に当たっては、JAや市のホームページ等で意欲ある研修生を募集している。研修期間は2年間で、農業を支えていく貴重な存在である。

	3 後継者の確保及び就農定着に向けた各種施策について 農業機械や施設等の初期導入経費の軽減を図るため県事業に上乘せ助成、模範となる若手農業者を表彰 等 4 効果について 研修修了生は専業あるいは兼業農家として地元定着しており、地域農業の維持に多大な貢献をしている。 5 現在の課題及び今後の取組について 研修施設は限られたほ場面積で多品目の園芸作物の栽培技術を学んでいるため、作業時間や経費等の感覚を持ちにくい。就農した際に困惑しないよう、先進農家や農業法人からインターンとして受け入れてもらい、規模感や営農感覚を養っている。
所感 (意見・感想・今後の課題等)	大仙市では新規就農を希望する研修対象者（49歳以下）の若者や後継者を育成するために平成15年からこの事業を始め、令和6年度までに114名の修了生を輩出している。 研修対象年齢の限度が49歳までとなっており、作業機械や設備投資に多額の資金が必要であること。後継者であれば作業機械や設備はある程度揃っているが、新規就農者は全て購入しなければならないため、当初は小規模農業又は兼業から始め、徐々に規模拡大をしていく必要がある。西条市も同様に農業の後継者不足や、農業就農者の高齢化が進んでいるため、さらなる関係機関との連携強化並びに、支援の対象外となる49歳以上の新規就農者にも支援を検討するなど多様なニーズに対応する必要がある。
その他	視察の様子 

(別紙)

視察先	山形県天童市（人口 60,419人、面積 113.02km ² ）
視察日時	令和7年7月1日（火）14時00分～15時30分
視察目的 （視察先選定理由）	天童市は、ふるさと納税額が全国トップクラスとなり、その後も上位をキープしている。その事業内容や返礼品について調査し、西条市の寄附額向上につなげるため。
調査概要	○ふるさと納税の取組について 1 現状について 天童市では、ふるさと納税の寄附の受付を始めて3年目の平成27年には、32億円を超え全国トップクラスとなり、その後も上位をキープしている。 2 寄附額の増加に向けた取組について （1）「天童ファン」の獲得について 天童市は将棋の駒の生産が日本一で、将棋に関する聖地であることから、藤井聡太棋士誕生や、漫画の「3月のライオン」のヒットなどを追い風に天童ファンを増やしている。 （2）独自の返礼品や品質向上について 日本一の生産量を誇る将棋の将棋盤や駒、サクランボやラ・フランス、桃、サンシャインマスカット、リンゴなどの農産物がある。また、月山（1,984m）の名水を使った地酒はIWC（インターナショナルワインチャレンジ）で唯一、世界一に二度輝いている。 また、返礼品の欠品の際の代替に対応するために価格を5,000円単位にしており、取扱サイトは市が独自に開設している。 3 現在の課題について 品質管理のために、担当課には市職員を6人配置し、返礼品の事前検査を厳しく徹底している。 ・特産品としての基準設定。本市の特産品として適当であるかどうか。 ・生産者の支援と市の認知度の向上。 ・特産品の供給量の確保。フルーツなど期間限定の供給量と代替品の確保。 ・クレーム時の対応。 ・市のオリジナリティの確保。 4 今後の取組について ポイントは品質にあると考え、生産者と市で品質管理の徹底を図る。

所感 (意見・感想・今後の課題等)	返礼品取扱を始めた当時、ふるさと納税を担当していた現在の市長の思いが、今日まで引き継がれ、努力されていることが大きい。 また、将棋の世界の世代交代の時期や、漫画「3月のライオン」とコラボし、漫画のヒットが重なったことが大きな要因と思われる。登場人物が天童市出身で天童市が登場すること、作者もまた山形県にゆかりがあることから、協力体制が取られている。例えば、返礼品の包装紙やカードには、メッセージを添え、その絵が毎年変わることで、リピーターへとつなげている。 経費圧縮のために、市が配送業者を一元管理しており、フルーツなどの種類が変わっても代替が効くように価格を5,000円ごとに設定しているところがミソである。西条市は他市の事例の参考も必要であるが、独自のリピーター獲得方法を模索する必要があるだろう。
その他	視察の様子 

(別紙)

視察先	山形県酒田市（人口 94,762人 面積 602.98km ² ）
視察日時	令和7年7月2日（水）13時30分～15時00分
視察目的 （視察先選定理由）	地方都市で不足しがちなリソース（人材・情報・事業パートナー・資金等）を人と人、人と企業をつなぐ支援体制について学び、今後の本市のDXの推進、人材の育成・確保の取組につなげる。
調査概要	○酒田市産業振興まちづくりセンター「サンロク」について 1 設立に至った経緯について 前市長から、「農商工連携を含めた、産業振興とまちづくりの推進をする組織を作ってほしい」と指示があり、当時、人事交流で経済産業省から出向してきた職員（現副市長）が中心となり設立。 専門機関や商社、小売のような商流を持っているパートナーに「つなぐ」というコンセプトを掲げている。 2 運営について （1）スタッフ等の募集・受入方法について 市が事務局を務める協議会組織として運営。会計年度任用職員についても、市の規定に沿った採用と配属となっている。 シニアスタッフについては、公募形式で、審査を経て外部契約を結び、稼働実績に応じた費用を負担している。 コンシェルジュは、市の産業振興政策参与を兼ねており、センター長（副市長）調整の下、委嘱を行っている。 （2）関係団体・企業等との連携及び関係性の構築について 産官学金による協議会組織を構成し、総会や、四半期毎に活動レポートを行っている。 3 サンロクIT女子プロジェクトについて （1）概要について 市内の女性がITスキルを学ぶことで、多様な働き方の選択肢を得ることや、所得向上といったWell-beingの向上などを目指す取組を行っている。育成講座入門編と、育成講座実践編などの学習機会を提供するとともに、OJTを含む業務のマッチングを行っている。 （2）実績及び効果について 昨年度の新規募集には71名の参加者があり、一般的に登録者は150名（令和6年度⇒令和7年度で107名へ）を超える人数となった。 業務案件参加者64名。延べ参加人数122名。 将来的な業務発注を想定して、研修スキームの提供や、リモート勤務を前提とし、2社より2名の職員採用につながった。 4 やまがたDXコミュニティについて

	(1) 概要について 地域の特色を活かした分野横断的な支援や取組が生まれることを目的として令和4年度に地元IT事業者・金融機関・教育機関・産業支援機関・行政で組織するコミュニティを設立した。 (2) 実績及び効果について 令和5年度は21人、令和6年度は30人の学生が履修し、酒田市の課題について、ITによるソリューションを提案及びサービスの一部を作成。(大学生による、買い物代行マッチングアプリ等々) 5 現在の課題及び今後の取組について (1) 現在の課題 「サンロク」としての事業の人材育成分野を中心に拡大しているが、一方で「サンロク」としての主な目的である「つなぐ」という点において、地元事業者のニーズを拾い、効果的なマッチングを成し遂げているとはいえない。 (2) 今後の取組について 「地元企業、農林水産事業者及び市内の個人・グループのニーズ(課題)やシーズ(技術や能力等)を集め「つなぐ」ことにより、産業振興、農商工連携、女性の活躍、起業や副業をはじめとした多様な働き方の促進等を図ることに注力する。
所感 (意見・感想・今後の課題等)	市が事務局を務め協議会組織として運営することにより、地域に密着し、事業者のニーズや課題に対し、しっかりと対応ができる。また、商工会議所と同じ建物内にあるサンロクのコワーキングスペースでは活気あふれる様子であった。 一方で、行政として、一線を画して対応しなければならないという部分もある。働き手と企業とのマッチングの難しさや、国の交付金終了後の事業の在り方についてなど、さまざまな課題はあるが、地元大学とのコラボや、地元出身者のIT企業との連携など、今後の取組を期待し、注視していきたいと思った。
その他	視察の様子 